

04 NFI 第5期の調査結果について

林野庁では、全国の森林の状態やその変化の動向を把握するため、^{リョウボク}立木や下層植生などを対象とした「森林生態系多様性基礎調査（NFI）」を実施しています。この調査は平成11年度に開始し、5年で全国を一巡するサイクルで継続的に行っており、現在は第6期の調査を進めています。

今年3月には、第5期（令和元～令和5年度）の調査結果を公開しました。本稿では、その概要をご紹介します。

第5期調査結果の主な概要

① 森林生態系タイプ

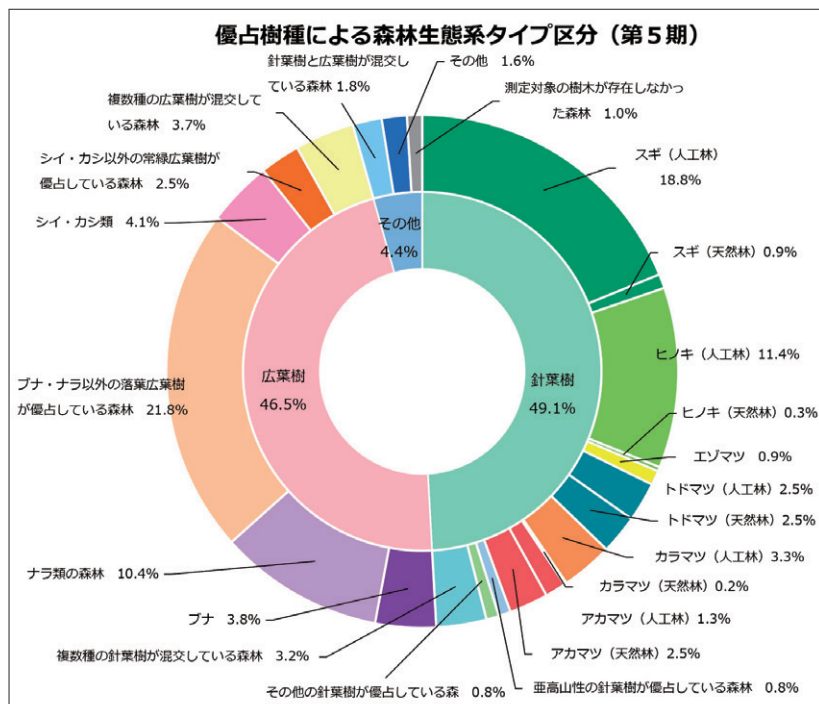
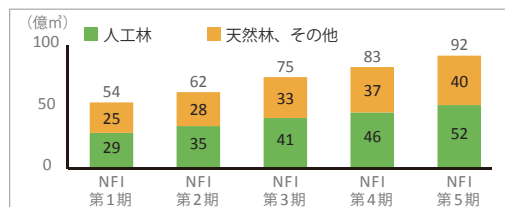
森林生態系の多様性を把握するため、優占樹種（各調査プロットにおいて、立木の幹の断面積の合計が全体の30%以上を占める樹種）に基づく森林生態系タイプを継続的に調査しています。日本の森林は「針葉樹が優占する森林」（円グラフ右側）と「広葉樹が優占する森林」（同左側）が同程度の割合を占めており、これまでに大きな変化はありません。

② 野生鳥獣による森林被害の状況

この調査では、野生動物による森林被害や生息の痕跡も記録しています。野生動物の中でもシカによる被害痕跡が確認された調査プロット数が最も多く、右記の分布図に示すように第4期から第5期にかけて、その数は増加しており、生息域の拡大が示唆されました。今後、より広い範囲の森林がシカの採食などの影響を受ける可能性があります。

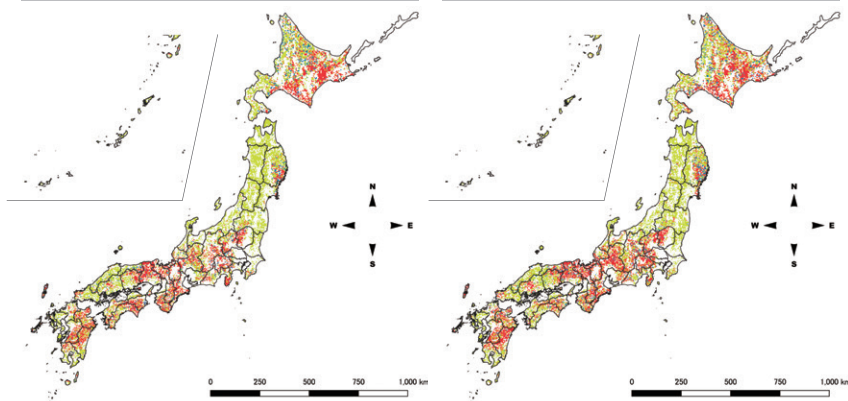
③ 森林蓄積

森林に生育する立木の幹の体積の総量を森林蓄積と言います。調査結果を基に全国の森林蓄積を推計したところ、第5期調査では約92億m³となり、下グラフに示すように我が国の森林蓄積は着実に増加していることが明らかになりました。



シカ被害の発生状況 第4期

シカ被害の発生状況 第5期



注1：NFIの調査結果に基づく森林の蓄積の推計値

注2：NFI第1期；H11～15年度、NFI第2期；H16～20年度、NFI第3期；H21～25年度、NFI第4期；H26～30年度、NFI第5期；R1～5年度

注3：計の不一致は、四捨五入による。

調査データの公開

第1期から第5期までの調査データについては、行政機関や研究機関をはじめ、多くの方に利用していただけるよう、「森林生態系多様性基礎調査」のウェブサイトで公開しています。調査プロットごとの集計データを確認できる「解析プログラム」のほか、単木情報（樹種、胸高直径、樹高など）や下層植生の植物種などの詳細なデータである「研究者等向けデータ」も公開していますので、同サイトの「データ利用ヘルプデスク」からデータダウンロード申請フォームにて申請の上、ぜひご活用ください。

森林生態系多様性基礎調査

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/tayouseichousa/index.html>



森林生態系多様性基礎調査 データ利用ヘルプデスク

<http://forestbio.jp/>

